

平成30年2月26日
 東部農林振興センター 雲南事務所 農業普及部

標 題

～ 10年後の集落を思い描いて～
 飯南町で中山間地域の農業を考える研修会を開催

(ダイジェスト)

飯南町の赤来担い手連絡協議会、頓原集落営農連絡協議会の共催により、1月19日飯南町役場にて集落営農の維持、発展を目的に「中山間地域の農業を考える」研修会が開催され、広島経済大学の山本教授から、先進地の事例紹介やワークショップが行われました。この日集落営農等の関係者50人が出席し関心の高さが伺えました。

飯南町では（農家の高齢化や後継者不足が進む中）集落を単位として、農業法人、営農組合、機械利用組合、認定農業者等多様な担い手により農業生産が営まれて取り組まれています。中山間地域では今後どのような方法での対応策が考えられるのか、自分たちの集落で現状に応じた活動方針を考えるため、研修会が平成30年1月19日開催されました。

当日は、飯南町役場において集落営農法人、任意組合、認定農業者等、関係者総勢50名が参加し会場が一杯となるにぎやかな研修会となりました。

はじめに県農業技術センターの担当者から、集落営農の組織化、後継者の確保、多角化、広域連携、先進的な取り組み事例の紹介等の情報提供がありました。

その後、広島経済大学の山本教授から、集落営農の人材確保、経営の高度化のため営農組織形態のステップアップが必要であるとの説明と、優良事例の紹介がありました。

この講義を踏まえ、参加者を5グループに分け、集落内の農作業ができる人材、女性の活用、集落の作業に参加していない人材等について、ワークショップが行われ、意見交換されていました。

集落の棚卸では、5年後までは、何とか経営が可能であるが、10年後は心配であるとの回答が多くあり、予定時間を超過する研修会となりました。

当普及部としては、集落営農組織が持続可能な水田農業の担い手となるよう、多角化や広域連携等の導入も視野に入れ、支援していきます。



研修会の様子



ワークショップの様子